

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

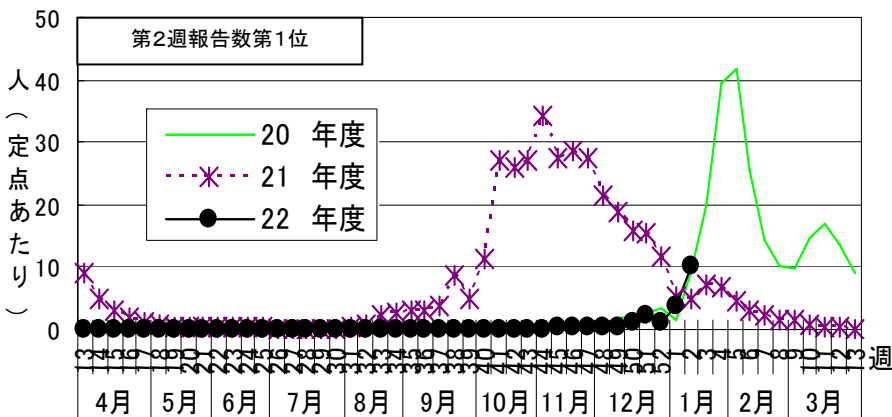


KAWASAKI CITY

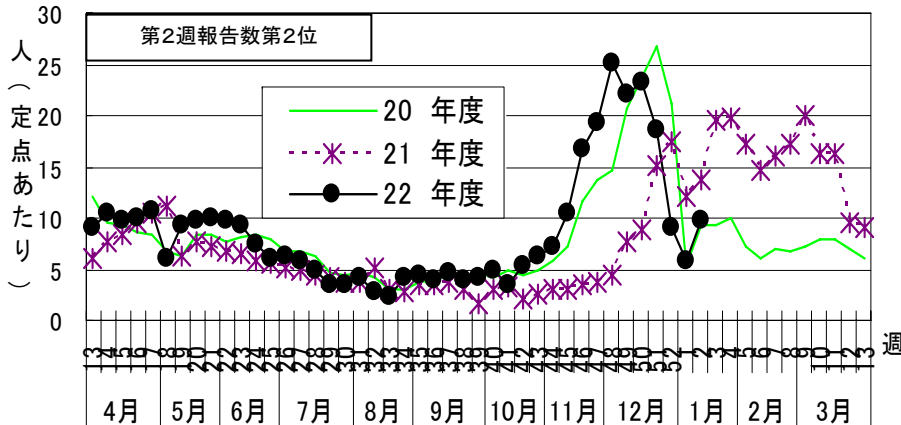
平成23年1月10日（月）～1月16日（日）〔第2週〕の感染症発生状況

第2週で報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)水痘でした。
 インフルエンザは定点あたり9.98人と前週（3.68）より患者報告数は大幅に増加しており、流行発生注意報基準値（定点あたり10人）に近いレベルとなっておりますので、今後の発生動向に注目する必要があります。なお、年明け以降に医療機関から提供された検体は34件であり、検出結果は、29件が一昨年に流行した新型インフルエンザウイルス、1件が香港型（季節性インフルエンザウイルス）、1件が新型と香港型の混合、3件が陰性となっております。
 感染性胃腸炎は定点あたり9.88人と前週（5.75）より患者報告数は増加しております。

インフルエンザ発生状況（3年間）



感染性胃腸炎発生状況（3年間）



ストップ インフルエンザ～蔓延防止の主役はあなた～

左のグラフにあるとおり、インフルエンザの患者報告数は大幅に増加しております。

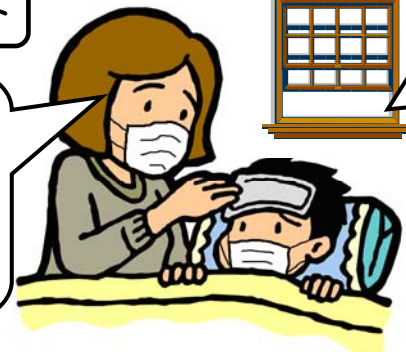
そこで、今回は「自宅看病のポイント」についてご紹介します。インフルエンザにかかったお子さんを家族の方が看病する際、看病していた家族の方までインフルエンザになってしまうと大変です。次のポイントに気をつけながら看病するようにしましょう。

せき・くしゃみがあるときは、口や鼻をおおきましょう



自宅看病のポイント

- ①看病する人は、患者とともにマスクを着用（できれば手袋も）※マスクと手袋は使い捨てにしましょう。
- ②患者と接触した後は、必ず石けんで手洗いをしましょう。



部屋の状態について

- ①湿度を 50～60%に保ちましょう。
※ぬれたバスタオル等を部屋に干すと効果的です
- ②こまめに換気をしましょう（1時間に数回）。
※風の入口と出口をつくり、風が通り抜けるようにすると効果的です。

患者への対応

- ①単なるかぜだと軽く考えずに、早めに医療機関を受診してアドバイスを受けましょう。
- ②汗で水分が失われてしまうので、スポーツ飲料などで水分補給しましょう。
※食事は消化がよく、栄養のあるものを選びましょう。
- ③熱が高いときは、頭と脇の下を、氷枕などを使って冷やしましょう。
- ④体力の消耗に注意して、湯船ではなくシャワーで済ませましょう。
- ⑤発熱などの症状がなくなっても感染力が残っているので、少なくとも症状が始まった日の翌日から7日目まで、あるいは自然に熱が下がってから2日目までは外出を避けましょう。

